

安達太良山山行報告書

(山域) 安達太良山(1,700m)

(コース) あだたら高原スキー場～くろがね小屋～安達太良山～ゴンドラ山頂～あだたら高原スキー場

(日時) 7月4日(土曜日)

(天候) 小雨のち曇り

(参加者) GL:内堀(記録)・SL:木屋・鶴田・渡辺純子・吉瀬・時田・佐々木文

(山行タイム) あだたら高原スキー場 7:05～くろがね小屋 9:05～安達太良山 10:40～ゴンドラ山頂 12:00～あだたら高原スキー場 14:00

(山行報告)

前夜(金曜日)千葉駅北口 21:30 集合し、出発する。この時点で既に雨は降っているが、東北方面は梅雨前線の影響を受けていないとの判断から出発した。東北方面は東関東の大栄 JCT で圏央道に進み、常磐自動車道に進んだ、途中雨脚は酷くなるばかりで、この先心配になる。

日立中央PAで休憩と明日の買出しを済ませ、出発し磐越道・東北自動車道の二本松ICに到着した。この頃になると雨は降っておらず、明日は大丈夫と心の中で呟く。岳温泉のコンビニで飲み物を買ひ、道の駅つちゆに向かう。途中より雨が降って来た。道の駅つちゆは雨よけの庇があり、ここにテントを張ることが出来た。ラッキーでした。

軽く宴会をして就寝した。翌朝 5:40 頃起床してテントの撤収をした後、各自朝食を済ませた。

雨は降っておらず、何とか持って欲しいと願うばかりである。道の駅よりあだたら高原スキー場に向かい登山靴に履き替える。車は4～5台で本日天気が悪いため敬遠したのだと思う。

出発して馬車道を進むが雨がポツリポツリと降り始め、早めに樹林帯に行きたいと思うが、雨脚が強くなり、全員で雨具を装着する。馬車道を進み旧道(登山道)に進むと樹林帯のためか、雨はさほど感じられなくなってきた。勢至平分岐(せいしいたいら)に到着、ここで地図とコンパスで方向を勉強する。更に歩き続けるとくろがね小屋に到着した。早いせいか営業はしておらずトイレを貸して頂く。来年よりバイオトイレに変えるためトイレの費用を取るとの事。今どきタダでトイレが使用出来るとは。ラッキーである。この頃になると雨も霧状になり、止んだ状態に見受けられた。雨具を脱いで出発。峰の辻を目指す。冬何回か腰までハマることが夏道から容易に判断できた。道が抉られているためであった。今年の冬に役立った。

峰の辻から馬の背の周回コースを選択する。馬の背から安達太良山に向かう。アツと言う間に到着し、看板発見した。安達太良山頂とある。ここで記念撮影を行い。更にその上の乳首を目指す。山頂は人が少なく先程の場所が山頂と思い込んでいるのではないかと。山頂は風が強く記念撮影後は先程の看板まで戻る。人が多く登って来たルートは2～3パーティしか会わず、静かな山行を期待したが、山頂看板周りは人人だらけである。ツアー客もいる。クラブツーリズム等



ガスと風で早めに下山を開始し、来た道とは別のゴンドラ山頂へ向かうコースに進む。5分程度で風の影響がない稜線に出た。ガスも山頂のみで曇り景色となる。このコースはどうも人気コースのため、ドンドン登ってくる。道を譲るのも考えもんだな？ 時間が幾らあっても足りない。このコースはお花が沢山咲いており、簡単で人気がある事が伺える。また、石楠花が咲いていた。あまり人が多いので、今回はこのコースを止めようと思った。1時間程度でゴンドラ山頂駅に到着する。ここで、長い昼食とする。昼食を済ませた後、時間もあるためゴンドラには乗らず、薬師岳みはらし台を經由してスキー場に向かう。途中のスキーコースでは粘土質のためか、水を含み滑り易くなっていた。スキー場に到着しトイレ・買い物を済ませ、駐車場に到着したが、車が多く人が相当入っている事が伺えた。バスも2台ありツアー客もいた様であった。



車を飛ばし岳温泉のヘルシーパルにて汗を流した。途中コンビニ・ガソリンを給油して二本松ICに向かう。二本松ICに入った辺りでBOXから落ちる音がする。黒い物が落ちたと言われ、皆様は動物か何かと思い、私も思い当たる節が見つからずそのまま走行して、来た道に戻り、常磐自動車道の中郷SAにて夕食を取る。この頃になると梅雨前線の影響を受け小雨が降っていた。若干の睡眠を取ったおかげで元気になり、雨の中を進み常磐道・圏央道・東関道を進み帰葉した。今回の山行で50周年南アルプスへ向かうための準備は出来た。あとは天候次第である。自宅に帰り、山道具を整理した所、カメラが無い事が判明した。色々探したが見つからず、考えた末、二本松ICで黒い物が落ちたのはカメラだったようである。ザックの胸のバンドに掛けていた物がルーフBOXに入らず、外に出ていたため、時間とともに外れ、最後は車から落ちてしまった模様である。残念としか言いようがない。買って1年強、夢くも短い運命を辿った様である。今までの写真を撮り続けて頂き感謝を込めて合掌をした。今回の写真は東北自動車道の塵と消えて行った。

以上